

受託研究 「堤平神社 奉納額絵推定復元模写」

—研究内容と制作工程—

広島市立大学 芸術学部 美術学科 日本画研究室

【監修】芸術学部准教授 荒木 亨子

【制作】「天岩戸図」 芸術学部後期博士課程3年 松川 華子

「一ノ谷の戦い」芸術学部後期博士課程3年 村上 明花里

【調査撮影】芸術学部photo studio 橋本 健佑



「一ノ谷の戦い/平敦盛 熊谷直実」推定復元模写 完成図

2022年堤平神社（広島市安佐南区東野）の遷座の機に依頼を受け、奉納額絵「天岩戸図」と「一ノ谷の戦い」の模写制作を行いました。原本は明治初期の作と考えられ、額には地域の氏子連名で奉納されたことが記されています。経年変化による剥落・褪色が進み図像の大半が失われていましたがデジタル撮影調査によっておよその図像を導き出しました。細部や描画方法については資料や近隣地区、同時代の類似作品を調査検討の上制作しています。今回板絵彩色指導に中村寿生先生（文星芸術大学 准教授）、鏡板作成に宮大工の三村康久棟梁（康和建工株式会社）にご協力頂きました。

模写制作の作業工程

本作品は板絵著色です。基底材となる木材は気温や湿度で収縮・膨張が起こります。4枚の杉板は吸付棧（伸縮を逃しつつ反りを止める構造）で組み付けられており、絵具の剥落、損傷の原因となる亀裂や反りを防ぎます。鏡板制作：^{かがみいた}康和建工株式会社

1. 原本調査

埃、汚れを慎重に落とす
絵具の種類、状態、破損箇所など確認



原本「一ノ谷の戦い」

2. 撮影調査

a. 赤外線撮影 墨などのカーボンが写る

b. 紫外線撮影 絵具など素材に反応

c. 斜光撮影 凸凹を大きく拾う

これらの撮影画像を総合し元の図像や用いられた絵具を推定する



a.

b.

c.

3. 調査から原寸大の下図を作成

各種撮影から輪郭を拾い、欠落した部分は類似作品の

調査や資料をもとに作成

板にドーサ引き（しみ止め）→ 下図転写 → 骨描 と進める



4. 彩色

彩色途中：胡粉下地・墨・辰砂



5. 完成（左上完成図）

彩色完了後、額を付けて完成

受託研究 「堤平神社 奉納額絵推定復元模写」

—研究内容と制作工程—

広島市立大学 芸術学部 美術学科 日本画研究室

【監修】芸術学部准教授 荒木 亨子

【制作】「天岩戸図」 芸術学部後期博士課程3年 松川 華子

「一ノ谷の戦」 芸術学部後期博士課程3年 村上 明花里

【調査撮影】芸術学部photo studio 橋本 健佑



「天岩戸図」推定復元模写 完成図

2022年堤平神社（広島市安佐南区東野）の遷座の機に依頼を受け、奉納額絵「天岩戸図」と「一ノ谷の戦い」の模写制作を行いました。原本は明治初期の作と考えられ、額には地域の氏子連名で奉納されたことが記されています。経年変化による剥落・褪色が進み図像の大半が失われていましたがデジタル撮影調査によっておおよその図像を導き出しました。細部や描画方法については資料や近隣地区、同時代の類似作品を調査検討の上制作しています。今回板絵彩色指導に中村寿生先生（文星芸術大学 准教授）、鏡板作成に宮大工の三村康久棟梁（康和建工株式会社）にご協力頂きました。

模写制作の作業工程

本作品は板絵着色です。基底材となる木材は気温や湿度で収縮・膨張が起こります。4枚の杉板は吸付棧（伸縮を逃しつつ反りを止める構造）で組み付けられており、絵具の剥落、損傷の原因となる亀裂や反りを防ぎます。鏡板制作：康和建工株式会社

1. 原本調査

埃を慎重に落とし、絵具の種類、破損箇所など確認
裏面に奉納の記録も確認



原本「天岩戸図」埃払い



裏面 墨書

2. 撮影調査

斜光撮影：凸凹を大きく拾う撮影方法

撮影画像と類似作品を総合し元の図像を推定



「天岩戸図」左端火焔飾り部分
斜光撮影



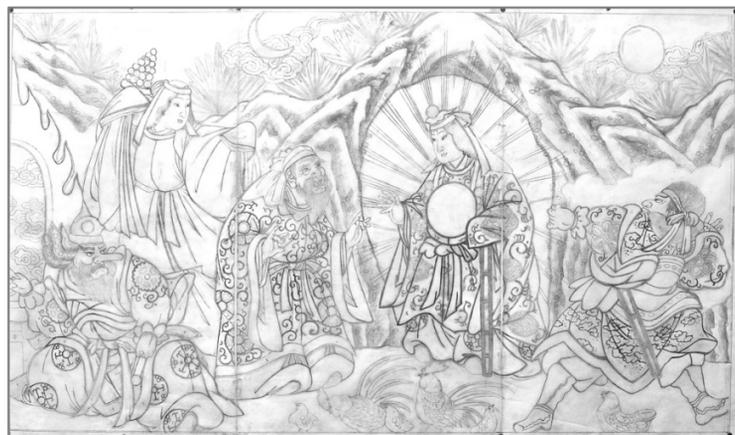
「天岩戸図」植物描写跡部分
斜光撮影



類似作品 火焔飾りと植物描写部分
稗田神社「天岩戸図」より

3. 調査から原寸大の下図を作成

おおよその輪郭を写し欠落した部分は類似作品や資料をもとに作成



4. 彩色



色見本（色の重ねや配色を検討）



彩色途中

5. 完成（左上完成図）



堤平神社奉納額絵 「一ノ谷の戦 平敦盛と熊谷直実」 原本



堤平神社奉納額絵 「一ノ谷の戦 平敦盛と熊谷直実」 推定復元模写

平家物語 卷第九 敦盛最後の場面

一ノ谷の戦いで源氏が勝利をおさめ、平家は海上へ逃げていくところ。源氏の武将熊谷次郎直実（画面右手前）は、海岸で船に逃げようとする立派な鎧の敵将＝平敦盛（画面左奥）の姿を見つける。「そこを行かれるあなたは大将軍とお見受けいたします。見苦しくも敵に後ろをお見せになるものよ。お引き返しなされ。」と扇を上げて直実が呼び止めると、その武者は引き返してきた。組み伏せて顔を見るとまだ十七、八歳の若武者だった。直実は我が子小次郎の姿が重なり敦盛を逃がそうとするが、後ろを見ると源氏の大群が迫っていた。せめて自分の手で討ち取り後世を弔おうと泣く泣く敦盛の首を取る場面。



堤平神社奉納額絵 「天岩戸図」 原本



堤平神社奉納額絵 「天岩戸図」 推定復元模写

天岩戸図

天岩戸に籠り隠れた天照大神。太陽の神がお隠れになり困った八百万の神が集まって相談をする。どうすれば天照大神が出てきてくれるか、岩戸の前で色々試してみる。夜明けごろに鳴く時告鳥を鳴かせる、天鈿女命が右手に鈴を持ち頭に鉢巻、踊りを踊る、聞こえてくる踊りや囃子、笑い声に天照大神は何事が始まったかと少し岩戸を開けた。その岩戸を手力男命が力を込めて大きくあける。思兼神は手を引いて天照大神を岩戸から出した。天界にも地上にも再び光が戻る場面。左手前は天狗のような鼻から猿田彦命か。